

2006年(平成18年) 11月22日 水曜日

29

13版

すばる望遠鏡「視力」10倍に

国立天文台は21日、米ハワイ島のすばる望遠鏡の「視力」を最大10倍に高める新システムを開発したと発表した。星々の光は、地上に届くまでに大気のゆらぎの影響を受けてゆがんで見える。同天文台は、レーザー光線で夜空に約10等級の人工星を光らせ、観測データを基にゆがみを補正し、鮮明な画像＝1面NEWSLINEに写真＝が得られるようになった。

人工星は、レーザー装置で上空

国立天文台が新システム

90キロ付近に発生させ、この星の光が大気で揺らぐ様子をセンサーで計測。望遠鏡本体の鏡が集めた光は観測装置に導かれるが、新システムでは、途中で反射鏡を組み入れた。この鏡は188個に分割され、計測データを基に表面を瞬時に微妙に変形させ、ゆがみを相殺する。

研究チームの家正則教授は「赤外線なら米ハッブル宇宙望遠鏡の3.4倍という高い解像度になる」と説明している。【山田大輔】



MAINICHI



新毎日

発行所：東京都千代田区一ツ橋1-1-1 〒100-8051 電話(03)3212-0321
郵便振替口座 00180-3-2800
©毎日新聞社 2006

毎日新聞東京本社

トータルヘルスケアへ。

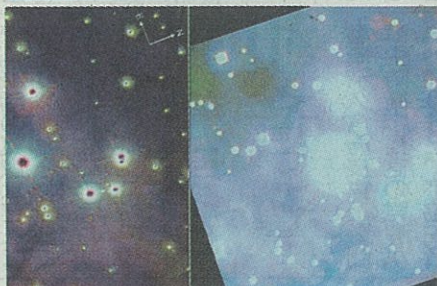


白十字

<http://www.hakujushi.co.jp>

NEWSLINE

(())



補正で鮮明

29

すばる望遠鏡の「視力」が最大10倍に。オリオン大星雲の中心部の画像(左)＝国立天文台提供)も、99年(右＝同)より鮮明に。大気のゆらぎを補正する装置の成果だ。